

その一歩先へ。
進化し続ける
龍馬Iの
ミッドナイトダイブ



ゴンベ科の稚魚

Palau Midnight Dive

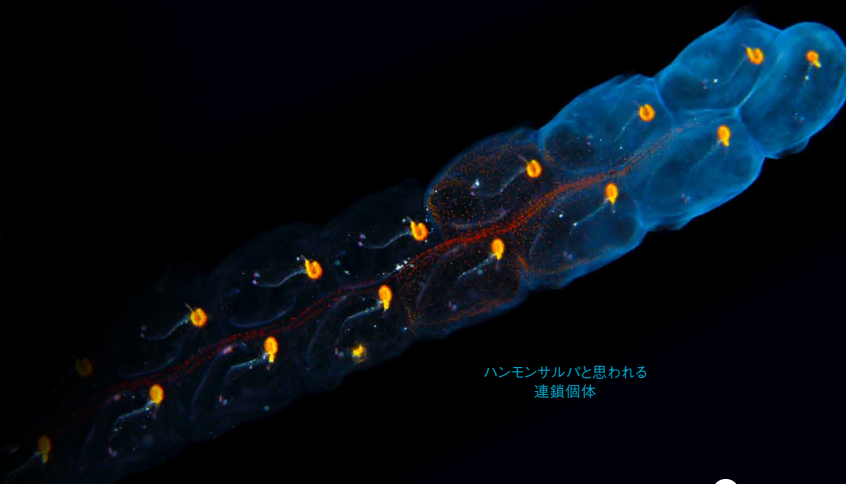
Photo & Text = 華水 亮
Thanks = デイドリームパラオ、坂上治郎 (サザンマリンラボラトリー)、井田 齊 (北里大学名誉教授)
Design = PanariDesign



まだ浮遊生活中、
着底生活まじかの
ミナミギンボの幼魚



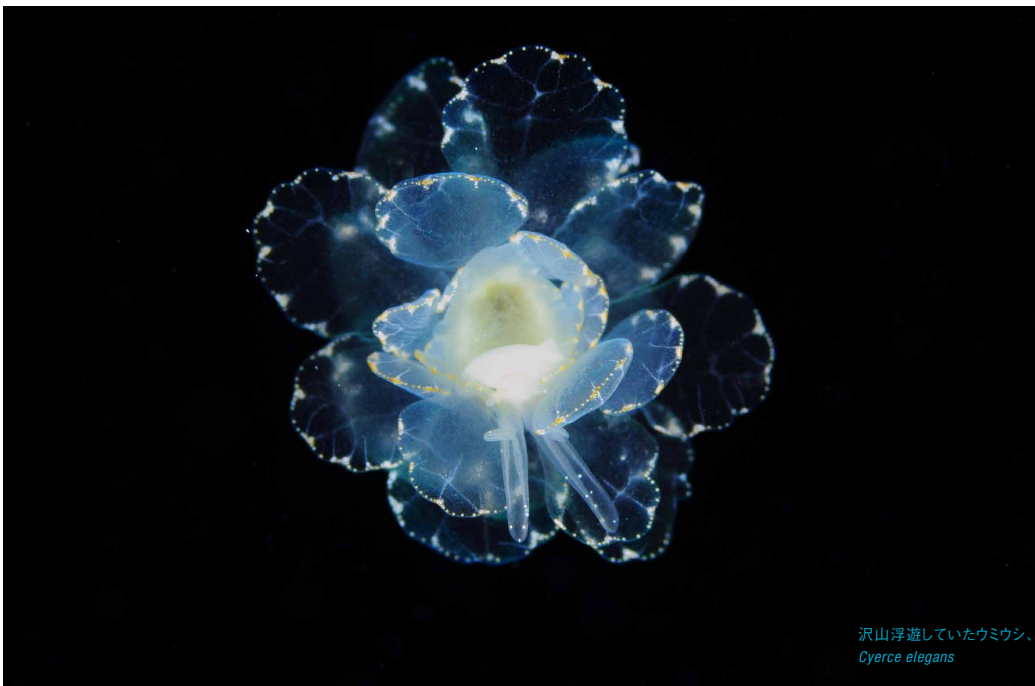
カエルアンコウ科の稚魚



ハンモンサルパと思われる
連鎖個体

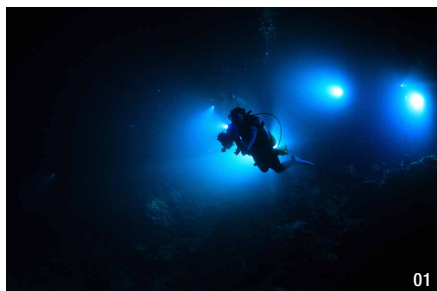
at **Ryoma Cruise**

ミッドナイトダイブでは押さえておきたい、浮遊生活をしているテナガダコの不明種



沢山浮遊していたウミウシ、*Cyerce elegans*

見つける



01, ライトが設置されればMNDの準備完了。暗やみに紛れてやってくる生き物探しの始まり

02, ライトの周りはシャコの幼生が集まり、シャコそうめん状態

楽しみ方のMNDの龍馬流

今回、オーシャナでは2度目のミッドナイトダイブ（以下MND）の紹介となる。龍馬でMNDが開催される度に参加してきた私を感じることは、その回を重ねるごとに、このダイブの魅力が増していくことだ。ダイビングの新たな遊びの一つとして、龍馬のMNDは確固たるダイビングスタイルになりつつある。

MNDはある種「お宝さがし」のようなダイビングでもあり、普段は見られない生きものたちとの出会いが豊富だ。その魅力の一つに、「見つける楽しみ」がある。一般的なガイドダイブとは異なり、MNDではガイドに

ついていく必要はなく、ライトが設置されたステージの周りにやってくる生き物を自分自身で思うがままに見つける。もし、すごい珍しい生き物を見つけたら、あなたはその日皆のヒーローになるかもしれない(笑)。

もし、あなたがその生き物をずっと観察していたければ、自分の好きなだけ時間を費やしてよいのだ。じっくり観察できるからこそ、今まで気づかなかった生態が見えてくる場合もあるし、自分好みの生物に自由に時間を費やすことで、より一層その生物の魅力にはまる事だろう。MNDはそういう自由なスタイルなのだ。



ミッドナイトダイブ前に見るポイントや生き物、注意点などについて画像を使いながらデイドリムの秋野さんがブリーフィング

その一歩先へ。

進化し続ける龍馬Iのミッドナイトダイブ

2013 Summer [Midnight Dive Cruise, Palau]

Palau **Midnight Dive** at Ryoma Cruise



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://www.daydream-cruise.com>

関連情報HPへ

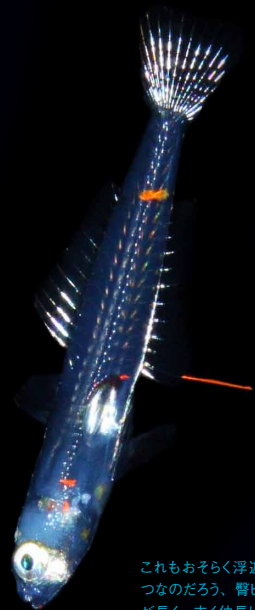
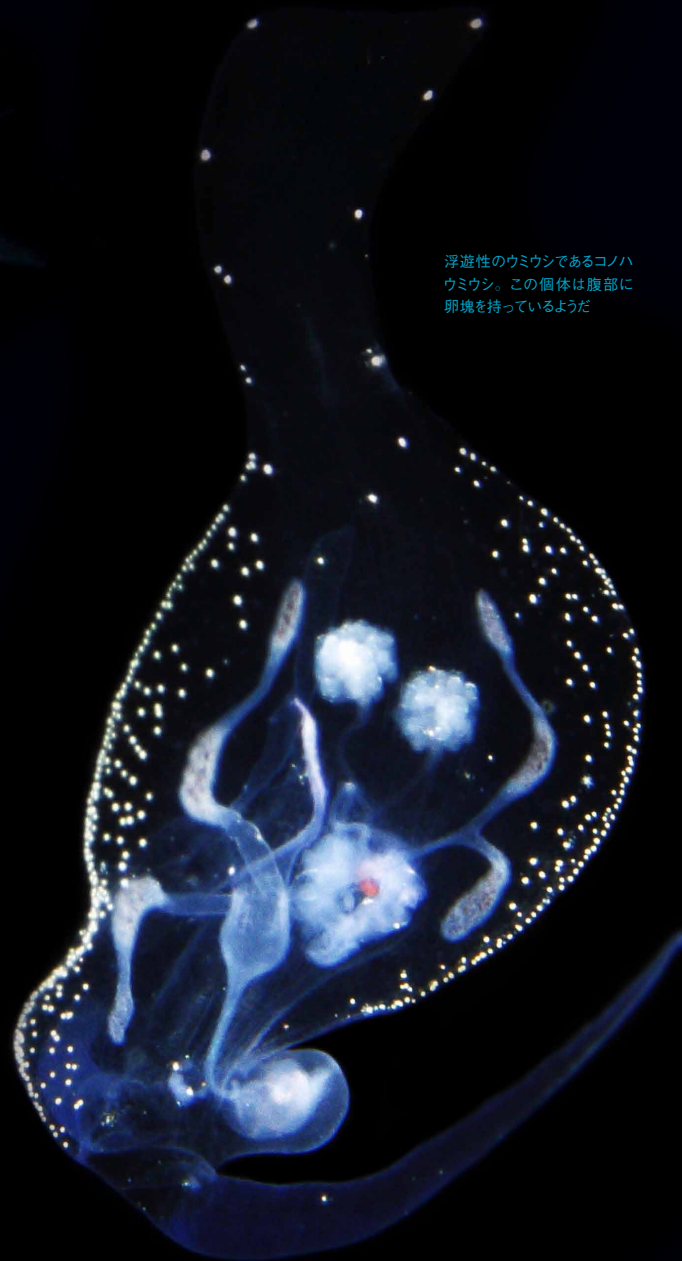
見つける

龍馬流
MNDの
楽しみ方

じっくり観察できること自体が珍しい、ハダカイワシの仲間。発光器の位置からイタハダカ属と思われる。背中に寄生虫の一種、ペンネラを付着させていた



浮遊性のウミウシであるコノハウミウシ。この個体は腹部に卵塊を持っているようだ



これもおそらく浮遊適応の一つなのだろう。腎ビレの第2棘が長く、赤く伸長していたハゼ科の稚魚。浮遊期だけにある特徴で、体内に浮き袋があるのが遠くで見えている

その一歩先へ。

進化し続ける龍馬Iのミッドナイトダイブ

2013 Summer [Midnight Dive Cruise, Palau]

Palau **Midnight Dive**
at Ryoma Cruise



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://www.daydream-cruise.com>

← 関連情報HPへ



腹側の黒色斑の数の特徴から、マダラエソの稚魚と思われる

01,この手の種類は飼育してみても初めて種類が判る。ダルマガレイ科の稚魚

02,このステージが観察できるのもMNDならではの。ヤセアマダイの稚魚



観察する

龍馬流
MNDの
楽しみ方



03 04



03, 鰭を広げながら、縦に姿勢を保って浮遊する特徴がある。ベラ科の稚魚

04, 坂上治郎さんが見つけて大興奮していた、イボオコセ科の稚魚。なにせ、パラオではこのグループの魚はまだ見つからないそうだから、大発見

ミッドナイトダイブで出会う色々な生きものたちを、ただの出会いで終わらせる。それだけで良いのだろうか？確かに、見るだけでいいという人もいるだろう。しかし、多くのダイバーたちの答えは、その生きものが何なのかを知りたいという探究心に満ちているのだ。

そこで、龍馬で行われているMNDでは、魚類生態学研究者であるサザンマリナラボラトリー・坂上治郎氏の監修のもと、気になる魚を採集して、水槽飼育をしながら変態の過程をさぐり、同定を行うプログラムが開催されている。

必要な方には「自分専用水槽」のレンタルがあり、例えば海の中にカメラを持って行かない参加者でも、興味があれば、飼育によってさまざまな知識を得ることが出来る。実際にゲストにライトとルーベを渡すと、水槽の前

でじっと観察をしながら図鑑にとらめつこ。生きものが次のステージへと変態していく劇的な変化をその場で目の当たりにしたり、判らなかつた種類の同定が出来たときのゲストのうれしそうな顔は、まるで「夏休みの自由研究」が完成したかのように、なにか一つやり遂げたような達成感があるのだろう。

小さな小さな生きもの達から人間が学ぶことは、山ほどに多く溢れているのだ。もちろん、龍馬のMNDでは、観察を終えたら、生きものに負担のかからないように心がけながら、海にリリースするようにしている。



龍馬のMNDを監修していただいている、サザンマリナラボラトリーの坂上治郎氏

その一歩先へ。

進化し続ける龍馬Iのミッドナイトダイブ

2013 Summer [Midnight Dive Cruise, Palau]

Palau **Midnight Dive** at Ryoma Cruise



©Ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
<http://www.daydream-cruise.com>

関連情報HPへ

MNDで見られる生き物たちの多くは「接岸回遊」をしに来ている生きものたちだ。海を漂う浮遊期から、その生物本来の生息場所を探しに、夜な夜な海岸近くにやってくる。もし自分の生息場所としてよさそうな場所だと判断した場合は、浮遊期の姿から着底生活に合った変態をとげて、その地に着底する。もし、その日たどり着いた場所が、やっぱり自分の好みの地でなかったとすれば、次の夜には再び夜の海に紛れて移動を繰り返す。ある意味変態の過程でも柔軟な姿を見せる時期でもある。

この色合いでも表層浮遊していた。体の色合いはヒラムシ擬態だという話は聞いていたが、浮遊期の泳ぎを見れば、まさにヒラムシそのもの。サザナミウシノシタ属の幼魚

海底に真っ逆さまに下りていく、アカエソ属の稚魚。あまりの速さに1カットしか撮れなかったが、黒色斑と体の色素の両方が現れている貴重なシーン

まだ色が出ていないソメワケヤッコ稚魚

見る見るうちに色がつき始める、ソメワケヤッコ稚魚

接岸回遊は、においや音などを頼りに行われていると考えられている。例えばサンゴ礁のにおい、波の砕ける音などだ。上に例を挙げたソメワケヤッコは、接岸と共に見るうちに姿を変えて、ソメワケヤッコ本来の姿である、黄色と青の体色に変化していった。アカエソ属の一種は、浮遊期の特徴である黒い斑紋が体の下半分にあるながら、着底した際の、赤いまだら模様の本래の体色の両方が現れている。MNDはそんな狭間にいる生き物たちの生態を目の当たりにできる唯一のダイビングだ。時には同じように回遊する他の生物に捕食されてしまうものや、それらの生物を狙って訪れるクラゲやサルバなどもいたり、それを逆手にとつてクラゲを利用しながら移動するエビ達など、同じように浮遊していても、その生きざまは様々で、小さな生き物たちの巧みな戦略が垣間見える。サザナミウシノシタ属の幼魚は、浮遊している際には毒を持つヒラムシの動きに似せながら、捕食から身を守り、自分の好みの生息場所を探している様だった。

観察する

MND 龍馬流
楽しみ方

その一歩先へ。
進化し続ける龍馬Iのミッドナイトダイブ

2013 Summer [Midnight Dive Cruise, Palau]

Palau **Midnight Dive**
at Ryoma Cruise



©ocean+ ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
<http://www.daydream-cruise.com>

関連情報HPへ

龍馬流
MNDの
楽しみ方

撮 影 す る

写 真をやっている人ならきっと誰もがMNDで現れる生き物たちを綺麗に撮りたいと思う事だろう。そう、私もそれにはまっている一人なのだ。なぜなら、MNDに現れる生き物たちはどれも普段はなかなか見られないような貴重な生きものばかり。形が面白くて、独特の美しさがあり、何しろ場合によっては一期一会になる可能性もある。そんな生き物たちだからこそ貴重な姿を写真に収めておきたい。肉眼では観察しきれない部分も、写真に収めることによってわかる場合も多いのだ。

と は言っても、普通の撮影とは露出やストロボのライティングなどが大きく異なる事も事実ある。実際の撮影では自分自身が浮きながらの撮影になるので、ピント合わせには集中力がある。そして、一番厄介なのが浮遊物との戦いだ。撮りたい被写体の周りにも無数の生物がいるので、ある程度は致し方が無いのだが、肝心の被写体に浮遊物が被ってしまって綺麗に写らなかったなどのことはなるべく避けたい。MNDでの撮影ではいかにゴミを少なく写すかがポイントになる事だろう。



ベリリューナイトで現れた浮遊性の貝の仲間、ウチワカンテンカメライ。白い斑点のように見える部分がヘルメットのような形の透明な貝殻で、無数の突起でおおわれている。

その一歩先へ。

進化し続ける龍馬Iのミッドナイトダイブ

2013 Summer [Midnight Dive Cruise, Palau]

Palau **Midnight Dive**
at Ryoma Cruise

ocean+α

©ocean+ α ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://www.daydream-cruise.com>

関連情報HPへ

MNDでは小さいものばかり探している事が多いせいか、かなり大きく感じたイトヒキアジの幼魚



対 策としては被写体との距離をなるべく縮めることで、被写体との間にある浮遊物を極力減らすことだ。つまり寄れるレンズの方が有利になる。あとはストロボの照射角度を狭くする「スヌート」などを使い、なるべくストロボ光を拡散させないようにすると綺麗に写しやすい。

被 写体としては、大きさが5ミリから2センチくらいのもので、ほとんどだが、時には左のイトヒキアジの幼魚のように、10センチを超えるような被写体も稀に出ることがある。マクロレンズや、28ミリくらいの画角で、ポートぎりぎりまで寄れるレンズがあるとMNDでの撮影にはちょうど良いだろう。



2013年の3月末のMND。開催初日に見つけたカエルアンコウ科の稚魚が私的に大ヒット。体表面積の拡大によって浮力を確保する例



菅底まじかのネッタイミノカサゴの稚魚

撮影する
龍馬流
MNDの
楽しみ方

その一歩先へ。

進化し続ける龍馬Iのミッドナイトダイブ

2013 Summer [Midnight Dive Cruise, Palau]

Palau **Midnight Dive**
at Ryoma Cruise



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://www.daydream-cruise.com>

関連情報HPへ



ミッドナイトダイブも終わり、
そろそろ寝ようかと思った
早朝、水平線から上ってきた
朝日が、龍馬号のデッキ
を美しく照らしていた



- 01, ゆったり&快適なキャビン
- 02, カタマランならではのゆとりのスペース
- 03, 温水ジャグジーまで完備
- 04, 皆、思い思いに夕陽にカメラを向ける



ゆとりのあるカタマラン型の
龍馬I号

快適な船

龍馬流
MNDの
楽しみ方

これほどの多くの要素が詰まったMNDを可能にしているのは、母船である龍馬I号の存在が大きい。MNDを開催するポイントの直ぐまちかで滞在できる為、潜る時の移動時間はほとんど必要ないことも大きい。

船内は、どのスペースにもゆとりがあって、MND後にもゆったりとしたキャビンに備わったベッドで十分な就寝がとれるから疲れがたまりにくい。日中にくつろげるスペースが各デッキに設けられており、ジャグジーの利用や日光浴なども可能だ。そして、何と云っても、私たちのわがままな「遊び」を支えてくれる心優しいデイドリームスタッフが揃っているからこそ、この船の大きな魅力と言って間違いはない。



- 05, ダイバーにうれしい、新たに設置された簡易脱水機
- 06, 開放的なダイニングデッキ
- 07, 屋上デッキにあるソファースペース

Information

次回のミッドナイトダイブクルーズWeek

★2013年10月23日～29日の7日間（1日からでも参加可能）

★2013年11月20日～26日の7日間（1日からでも参加可能）

📞 ミッドナイトダイブクルーズのお問い合わせは
デイドリームクルーズ ➡ info@daydream-cruise.com
➡➡➡➡➡➡➡➡➡➡ <http://www.daydream-cruise.com>

その一歩先へ。

進化し続ける龍馬Iのミッドナイトダイブ

2013 Summer [Midnight Dive Cruise, Palau]

Palau **Midnight Dive**
at Ryoma Cruise



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

★ミッドナイトダイブについての詳細は前回の記事もご覧ください
http://ocean.ne.jp/webmagazine/201208_palau_midnight

Information Link
<http://www.daydream-cruise.com>

📄 関連情報HPへ